

## 平成27年度第2回大府市総合教育会議議事録

招集年月日 平成27年10月15日

招集場所 大府市役所 委員会室1

開 会 10時30分

閉 会 12時00分

### 委 員

市 長	久野 孝保
教育委員長	河合 昌和
教育委員	永田 司
教育委員	西村 和子
教育委員	竹中 万里
教育委員	浅井 宣亮
教育長	細谷 正明

### 委員以外の出席者

副市長	岡村 秀人
教育部長	内藤 郁夫
学校教育課長	大島 将嗣
学校教育課係長	長坂 規代
学校教育課係長	中村 正樹
学校教育課主査	稲垣 七重
企画政策部長	池田 裕一
企画政策課長	久野 信親
企画政策課主幹	橋爪 秀信
企画政策課係長	川出 陽一

傍聴人なし

### 議題

- (1) 教育大綱について
- (2) 学校教育の現状と今後について

発言者	要 旨
河合委員長	<p>皆さま、本日はお忙しい中、第2回総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。特に市長さんはお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>北の方からは初冠雪という便りも届いております。最近、朝も寒くなりまして、私ちよっと風邪を引いたかなと思います。皆様はいかががでしょうか。</p> <p>本日は第2回目の会議ということで、次第に沿って進めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>前回の総合教育会議では、運営に関する要綱が定められております。その第4条の経過措置ということで、当分の間、私が進行を務めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。限られた時間ではありますので、円滑な会議の進行にご協力をお願いします。それでは、始めに市長さんよりご挨拶をお願いいたします。</p>
市 長	<p>皆さん、こんにちは。お忙しいところ、総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>総合教育会議では、私は前回お話したように、なるべく座っているだけにしてたまに意見を言うくらいがちょうどいいと思っています。安全保障により経済が成り立っていくように、教育への要望もナショナルミニマムとして最低限の保証が必要です。教育、特にICT教育は重要ですが、失敗を是正しながら前に進むことも大切です。取り組むことはたくさんあります。力強くおらかな教育を目指して頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。それでは、私からもご挨拶を申し上げます。</p> <p>市長さんが行政の長として、いつも前向きに新しい施策をどんどん進めていらっしゃるの、大変心強く思っております。この総合教育会議も皆さんご存知のように地方公共団体の長である市長さんの考えを教育にもっと反映すべきだということから始まっています。新教育委員会制度の教育長は市長さんに選任されることとなりますので、市と教育委員会の関係を密にするための市長さんと教育委員会のパイプは太いと思っています。しかし、先ほどのご挨拶にありましたように、政治経済を含めて社会は刻々と変化をし、それから教育の状況も変わっている。そんな中で、こういう場で市長さんと直接お話をし、また、私どもの考えを一つ一つ検討していくことで、大府市の教育行政、教育振興というものが先に進むように努力すべきだろうと思います。また、そういう場にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p>
河合委員長	<p>それでは、2議題の方に移りたいと思います。</p> <p>今日の議題は、教育大綱についてと、2番目が教育の現状と今後につきましては、本市の子どもたちの体力の現状についてと、ICT教育について少しご提案をいただきながら皆で考えて進めさせていただこうと思います。</p> <p>それでは、議題（1）教育大綱について、事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>（教育大綱について説明）</p>
河合委員長	<p>教育大綱について説明させていただきました。</p> <p>何かご質問等がございましたらお願いいたします。前回の会議でも申し上げましたが、この会議は大府市の教育を市長と教育委員会で一緒になって考え、推進していく会議ですから、大府市の教育行政について、各委員の皆さんが考えてみえることや、疑問に思</p>

発言者	要 旨
	<p>っていること、今後の会議で話題としていきたいことなど、自由に発言していただきたいと思います。浅井委員、お願いします。</p>
浅井委員	<p>この教育大綱なんですけれども、今までの課題が山積みしているということであれば大幅変更しないといけないと思いますが、大府市の場合は今までのプランがあって、自画自賛ではないですけど、私からすればちゃんとやって来ていると思います。大府市には、教育振興基本計画、生涯学習プランなどのいい計画がありますから、今あるいいところは残してこれをベースに教育大綱を作っていけばいいと思います。いわゆる変化についてですが、計画中の改善やレベルアップを目指しての変化だったらいいのですが、いいところは継続して残しつつ、教育大綱の方を作り上げていくのがいいのではないかと思います。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございます。他に何かご意見ありますでしょうか。</p>
教育長	<p>前回、教育振興基本計画を策定した立場の一人として感じることを申し上げますが、実は、先日ICTなどの教育目標に関する議論の中で、ICTを進めていく先生たちは、その数値目標を掲げてそこを目指して頑張っていくのですが、先生たちは今までの方法を変えていく考えが乏しい。私も現場にいた人間の一人として確かにそういうものがあることを感じていた。現在ある教育振興基本計画の中にも数値目標が掲げられているが、現場の先生一人ひとりがそれを十分に意識して日々の教育実践に当たっているか危惧している。市教委でも同様にきらきら教育という計画をもっているわけですが、そうした計画をもっている以上、それを一歩でも半歩でも目標に近づけていくにはどうするのか。教育委員会からの働きかけや、校長先生方の自覚を促しながら、この計画をより実りのあるものにしていかないといけない。これは、教育委員会の一つの指名でもあるということも思ったりしながら、数値目標を掲げ実効性のあるものにしていくという努力はしていけないといけないという思いを持っています。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。  教育長がご指摘になった点につきましては、義務教育推進委員会でも目標が高すぎるという意見もあり、現場としても感覚が薄かったと思います。市長さんを始め行政の皆さんが当たり前のことと思っても、現場の感覚が薄いということで反省をしながら今進めているところでございます。  市長さんはこれについてお話をすることがございましたでしょうか。</p>
市 長	<p>市も意識が低かったと思いますが、行政としては早くからPDCAサイクルを取り入れてきたんです。行政評価システムと言っていますが、目標を設定して段階ごとにチェックして結果を反省する。それをさらに活かしていくという行政評価システムを取り入れたんですね。事業ごとに分けて目標を定め、それをコンピュータでシステム化してどういう成果が出たかを測る。それを取り入れてきたんですが、それでもまだ不十分だと指摘されるんです。  民間企業は徐々に改善していることからすると、学校の先生というのはまだ遅れているかなと思うんです。私ども行政も市民の満足度を基準にずっと進めてますが、なかなかわかりにくいと思うんです。だから、子どもたちを指導していくことは難しいと思いますが、それでも努力を続けていくことをお願いしたいと思います。  特にこういうICTなどを導入することも決まりますから、子どもたちの学力がどのレベルに達するかというのもわかりますから、それをお願いしたいと思っています。</p>

発言者	要 旨
	<p>ただ、かなりの予算も投入しますから、成果主義というのとイコールとっておられる方もいるようで、早く結果を出せということでは言われているという話を聞きました。ICTもこれから20年先の話ではなく、今の話ですからね。ただ、教育は20年、30年先に結果が出るそういうものだと思いますので、難しいことはわかりますが、恐れずに研究を進めていただきたい。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、市長さんの行政評価システムの話が出ましたが、プラン・ドゥー・チェック・アクションということで大変厳しくやられるわけです。大学でも今は学生が先生を評価しますので、それについて反省文を書かせられましてですね、今、まさに自分のやったことを数値で突きつけられてそれについてどう思うかといわれる現状です。教育活動にはですね、今ご指摘のように数値化できないものもたくさんあるわけです。市長さんの言葉を使うと、満足度の基準はあったなと思っていたんですが、教育長のお話のように、自分たちの現状と課題のお話でした。</p> <p>他にご意見ありますでしょうか。永田委員お願いします。</p>
永田委員	<p>行政評価システムということで、市長が今言われましたが、その評価システムにきちんと取り組んで、やっぱりきちっと反省できるところは反省して次に繋げていく努力をしないと絵に描いた餅で終わってしまうと思いますので、その辺をもう少しどういった形で評価するのか再検討して、きちっと未来に繋げ、さらに良くしてほしい。地域の方でも家庭でもそうなんですが、それぞれが皆さん考えていることも多いのですが、具体的に何かやっても自己満足で終わっているようなところもある気もします。その辺をどうやっていくのかをもう少し見極めてやっていく必要があるのではないかと私は思っています。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。計画を実践実行していくと評価の問題にシフトして話が進んでいると思いますが、他にそういったことについて、先ほどの事務局の提案も踏まえながらご意見がございましたらお願いします。浅井委員お願いします。</p>
浅井委員	<p>この行政評価システムの話が続いて申し訳ないんですが、今、河合先生がおっしゃったように、生徒が先生を評価することも簡単なものではない。先生の言葉がはっきりしているとか熱意を感じるかとか生徒に質問をして、その結果が円グラフのようなダイヤグラムになっていて、大学の平均がこの辺で、学部の平均で比べて自分は下がっているとか、他の先生と比べてどんな状況だとか現時点での自分への評価が生徒や児童から見るとどうなふうに評価されているかがわかります。</p> <p>おれはちゃんとやってるよとかいっても、評価が低ければやはり何か問題があるわけですし、だから先生が自分自身を見直す機会としてもこの評価システムというのは有効ではないかと思えます。毎年やらせていると逆に頑張ろうかと考え直す機会にはなりませんので、評価システムは取り入れていきたいと思えます。</p>
市 長	<p>評価システムをやろうという要望は強いのですが、大方の特徴は万遍なくやれる人、オールラウンドプレイヤーが高い評価になる傾向があり、どこかに飛び抜けた人が落ちて行ってしまう。これがいいかどうかということもありますが、最近、中日新聞の社長がイギリスの話をされていて、イギリスの教育の一番目は人選び教育、皆を一緒に並べない、優れたやつを育てるといふ教育。ずば抜けた人がいない日本の教育は義務教育を最低の保障としているが、その中でもやっぱり伸ばす教育というのは必要だと思います。</p>

発言者	要 旨
河合委員長	<p>今、市長さんがお話になった日本人と申しますか、教育は人選び、飛び抜けているところをもっと伸ばすことによって、へこんでいるところを少なくしていくことですから、今お話されたことも非常に大事なことであります。評価システムなど細かいことまではなかなかできませんが、今の議論でそういうことを教育大綱に後から盛り込んでいけな いかと思います。</p> <p>それで、私ばかりがこんなことを言っているとはいけないのですが、市民憲章にはどこにも触れられていませんが、この教育大綱中に文言としてというのではなく、考え方として位置付けていくことも大事かなと、勝手に思っている次第でございます。</p> <p>今までのご意見をまとめますと、一点目は浅井委員さんからのご指摘のように、やっぱりいいところは残しながら伸ばしていくと。以前に立派なものを莫大な労力と時間を掛けて作っていますから、それを残しつつ新たに作っていく部分は事務局案のとおり にやっていると理解しているわけですけども、その間に議論として出たのは、私たちの評価というものはどうしたらいいかということでした。評価のシステムというものは教育大綱に盛り込む、盛り込まないは別として、やはり共通の認識として持っていくことが、大府の教育を実現するということになるというふう に思っております。</p> <p>教育大綱の方はこの程度でよろしいでしょうか。結論を申し上げますと、先ほどの事務局の提案のように、このタイムスケジュールで進めたいと思います。これは、市長さんの任期との関わりで4年、5年と言われておりますが、2017年から向こう4年間の大綱として私 たちも考え方を進めていくということを確認したいと思っております。</p>
河合委員長	<p>続きまして、議題（2）の方に移りたいと思います。時間も限られておりますので申し 訳ありません。</p> <p>（2）学校教育の現状と今後についてということで、1点目は、児童生徒の体力の現 状ということでございます。事務局の方から説明をお願いします。</p>
渡部指導主事	(児童生徒の体力の現状について説明)
河合委員長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から「児童生徒の体力の現状について」説 明がありました。</p> <p>委員の皆様からご意見がありましたらよろしく申し上げます。</p> <p>データから大府市の子どもたちの体力について総合的な結果を示したのですが、 その原因につきましても、車社会とか今の話にありましたように、塾に通う子ども が多いとか中に閉じこもってゲームをしているとか、いろんな話がありました。本市は健康都市を標榜して おりますので、ある一定の水準で推移していくことが大事だと思いますが、各委員さんの思いの ところをお話いただければと思います。いかがでしょうか。浅井委員さんお願いします。</p>
浅井委員	<p>今、親とか本人が運動の大切さというものをきちっと理解していないといけないと思 います。小中学生というのは、基礎体力を向上させる時期なのですが、現状は運動より も第一には勉強になってしまいます。しかし、運動と成績は比例しているところがあり まして、深い関係があるのだということを親御さんや本人に理解していただくという、 そういうお話をしていけば、運動を頑張る動機になるのではないかと思います。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございます。いいご意見をいただきました。 では、西村委員、お願いします。</p>

発言者	要 旨
西村委員	<p>浅井委員の発言に繋がるかどうかわかりませんが、私も指導主事の方から体力テストの数値で、大府市の子どもの体力が全国平均を下回る状況にあるという問題提起をしてもらい、そのことは深刻に受け止めなければいけないと思っています。先ほどの話ではないですが、数字はやっぱり低いよりは高い目的や目標を持っていくことが大切ですが、走るのが速ければいいのか、ボールをたくさん投げられるのがいいというのではなく、委員さんご指摘のように生きる力を支える体力というのか、人の話をきちんと聞けるとかいうのも、実は体力が非常に大きく関わるところもあるのです。そういう面からすると、生活を支える体力を測るために私立幼稚園なんかは入試で体力テストを導入しているというような話も聞きますと、今ご指摘のような観点から体力についてきちんと教わっていくことが最終的に知力を育てることに関係するんだということを思いながら、これからも取り組んで行きたいというふうに思います。</p>
河合委員長	他にご意見ございませんか。
竹中委員	<p>去年の予算ヒアリングの際に、大府西中学校の自転車置き場の問題で、子どもたちが朝学校に行くのに皆自転車を使っていて、駐輪場が足りませんという話になったときに、歩いて通学することをもっと広められないだろうかという話をしました。基本的に部活でぱりぱりやろうとしている子ども達全員に自転車置き場を使わせることは多分できないと思うし、私のように運動部に所属したことのない人間にとってはとてもハードルが高いのですが、学校に歩いて行くことは誰にでもできることだと思います。更年期を過ぎて、私も歩くことの価値というのは今まで知らなかったです。歩くことが大切ということは誰も教えてくれなかったのですが、私自身も知らずに生きてきたのですが、小学校のときは、今歩けと言われてたら歩けるかなというくらいの距離の非常に遠い小学校へ幼稚園も含めて7年間通ってました。毎日通学で体を使うということは、否応なしにすることなので、今、お年寄りたちがウォーキングをしています、それを小学生にも、若いお父さんやお母さんにも理解してもらうことが大切ではないかと思います。</p> <p>中学生が歩いて通えるところを自転車で通ったりしているため、確かに時間がなかったり、危険があったりするので歩くことが難しい時代かもしれませんが、今、高齢者たちがウォーキングにあんなに一所懸命になっていることを小中学生にも伝えられないのかな、そういった若いお父さんやお母さんたちにも一緒に歩くことを活用するように伝えられないのかなと思います。自分自身が1年間ウォーキングをして、非常に体調が良いので、ぜひ勧めたいです。西中なんか坂道がありますので、自転車で危険だと心配をするよりも体力の向上に繋がるんじゃないかと、普段の習慣をつけることができないのかなというふうに感じています。以上です。</p>
河合委員長	ありがとうございました。他にご意見はありますか。
西村委員	<p>竹中委員さんの補足というか意見なんです、保育園児からの体力という点からですが、保育園児のお母さんたちも本当に忙しいと思うんですが、車の送迎がとても多くてですね、これが小学校に上がったら急に歩きますので、通学団の歩くのについていけない子が多いと聞いています。小学校で健康の森の方へ春に遠足に行くのですが、それでもなかなかついていけない子どもたちが多いというのが現状で、保護者の方からも聞いています。ので、ぜひ児童センターの方とか体操教室も含めて幼児期からの体力向上に力を入れて行っていただきたいと思います。</p>
河合委員長	浅井委員さんから言われたように、やはり体力について保護者から理解させていくという活動が大切だというご指摘だろうと思います。

発言者	要 旨
	お待たせしました。浅井委員からお願いします。
浅井委員	<p>今言われたようにいろいろあるとは思いますが、やっぱり体力をいかに上げていくかというのが大事なところで、放課でも大放課の利用することも考えるべきではないかと思います。うちの子どもですが、読書が好きでみんな外で遊んでいる時に本を読んでいるようでして、本当に好きな本を読むのも大事なんですけど、やっぱり先ほど言われたように運動することで体力もつくことで学力も向上するというのもあるものですから、外で遊ぶのも大事だと思います。公民館とか市役所の地下でも中学生や高校生が勉強をやっているんですけど、小学生の子がゲームとか今すごく頻繁にやっているのを見てゲームと勉強を両立できるのかなと思います。この施設としてゲームはダメと言うわけにもいかないのですが、一言注意もしたくなります。全体に体力を上げていくためにはですね、そういう環境も変えていかないといけないと思います。</p> <p>あと、学校の取組もそうなんですけれども、きらきらチャレンジでもテレビを見ないというのではなくて、運動しようというチャレンジウィークみたいなのを設けてやってもいいんじゃないかと思います。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。きらきら教育についてもご提言をいただきました。ご存知のように、背筋力は体力テストから除外されたのもかなり昔だったんですね。学校で体力テストをやったら保護者から文部省に子どもが腰が痛いという電話が入ったそうです。そのうちにそんな物騒な体力テストは止めだということで、今はありませんね。浅井委員のお話は子どもたちの話ですね。筋力低下ですか。これはご指摘のように足腰が弱ってきていて、それを回復していけるように、子どもたち自身が理解し保護者自身が運動を活用することを理解できないとなかなか進まない。われわれも改善の取組を考えて行かないといけないと思います。</p>
竹中委員	<p>ちょっと前に聞いたんですが、今の日本の子どもたちの歩行する距離は1970年代の子どもたちに比べて、2分の1から3分の1に激減しているんですね。これにはちょっとびっくりしてしまって、人間は歩かなければ頭に血が行きませんよ。歩くことによって足の筋力で血を頭に送っているのですから、今の話と繋がっていく。そんなショッキングなレポートを聞きました。</p>
河合委員長	<p>これは、今の日本の子どもたちの共通の問題であり、これからの大府市民ですから何とかしたいと思っています。読書をするのが好きなら読書を一所懸命するのを伸ばしながらやはりご指摘のようにですね、運動することの意味を伝えていくことが大事なのではないか。なかなか難しいことですが、皆さんのお話をお聞きしながらそんな思いを持っていました。</p>
市長	<p>本市においては遊歩道を整備してるんです。車両が入ってこれないようにして、鞍流瀬川や石ヶ瀬川沿いからぐるっと回ってこられるようなものを整備しまして、市民の方々に歩いてもらっています。途中で健康器具などを設置すれば、家族ぐるみで利用していただき、また、体力を養うことが学力にも繋がっていくという考えをご家族で共有していただくことで、体力向上の一環を担えないかなと考えております。</p>

発言者	要 旨
河合委員長	<p>今、市長さんが上手にまとめていただきましたので、私は付け加えることはございません。最初に浅井委員がおっしゃったようにですね、市長さんの考え方として、この表を見たときに、結果を深刻に受けとめながら日々の教育活動に反映していくかが求められるのではないかと思います。どうやったらこの数値を、数値を上げることが目的ではありませんが、子どもたちの体力、それが知徳体のバランスよく育っていくことを深刻に受けとめるということだと思います。</p>
河合委員長	<p>これぐらいにして、次へ進めさせていただきたいと思います。続きまして、議題（３）のICT教育についてということでございます。</p> <p>前回の教育委員会でもですね、教育長の方からICT教育について問題点を整理しながら進めていくというお話がございました。事務局の方から説明をお願いします。</p>
渡部指導主事	<p>（ICT教育について説明）</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。市長さんの最初の挨拶にありましたように、この分野では大府市は最先端を走ってまして、先導的な役割を果たしていくのは私どもの役目かなと思います。しかし、その背景にはですね、市長さんの多大なご支援をいただいて、莫大な市民の税金を使って進めておりますので、その辺りを現場も理解しながら進めていただきたいと思います。幸いにも支援員を配置していただいて、手厚い保護の中でですね、先生も張り切っているというのが教育委員会でもお話があったように、今のところ順調に進んでいる状況であります。</p> <p>これについて、何かご意見ありますでしょうか。</p>
永田委員	<p>9月から本格的にICT教育が始まったということで、子どもたちの話からも、ものすごく楽しんでいるということを知っているんですが、それに伴って導入する前から言われているデメリットの部分がすごく気になっていまして、思考力が低くなったりとか、視力低下がしたなど、そういう問題もこれから起こってくると思います。ICT教育をやったことによって、それが学力向上に繋がってもうどんどんと良くなっていけばいいんですけども、そういったデメリットがあることによって、やっぱり導入したこと自体がだめだと指摘されてはいけないので、それをなくすためにまずはそういうことを潰していくことが大事かなと思います。</p> <p>例えば、数が入ればいいんですが、少ない中で電子黒板が1つ故障してしまったら全部できなくなってしまうケースもあるので、そういった時の対処法とかも必要でしょうし、何か起こったときのトラブル対応をまず考えておくのも必要かなと思います。</p> <p>ただ、今は本当に新しく入ったばかりでわからないことも多く、先生たちは子どもたちに勉強を教える前に、タブレットの使い方を自分たちが学ぶことで目いっぱいだと思うので、タブレットを使うための教育を子どもにしているような状態だと思うんです。そうではなくて、よりよい教育をするためにタブレットを使っていく状況になるのが先かと思うのですが、せっかく莫大な予算を使っているものですから、上手にやっていただいて先進的な取組みとして全国に発信できるような体制にさせていただきたいと思います。</p>



発言者	要 旨
河合委員長	<p>ありがとうございました。デメリットの部分も直しながらということでした。現場としてはですね、確かにいいことばかりではありませんので、しばらくは行きつ戻りつの状況は出てくるだろうと私は予想しておりますが、しかし大きな流れとして、これは時代の趨勢でもあるし、日本の今の教育の中でトップできた部分でもありますから、ICT教育によって大府の子どもたちが人間としてトータルに成長していけるという方向へ持っていけないかと思えます。</p> <p>その点については、市長さんも特別な思いを持っていらっしゃると思います。市長さんもこれを使うだけのことを目的にしているわけではなくて、永田委員さんのご指摘のようにトータルな成長とのバランスを考えて、試行錯誤はしばらくはあるかもしれませんが、子どもたちが興味を持って学習に取り組んでいることはいろんな報告を聞いても事実ですから、期待して進めて行けたらと思います。</p>
河合委員長	他に委員さん、何かご意見ありますでしょうか。
竹中委員	<p>9月30日に大府南中学校の学校訪問に行きましたが、まさにICT教育のスタートを見てきました。正直なところ、電子黒板が止まったりして支援員さんが対応しなければならぬ場面もあって、せっかく用意したものが今日はできないということがあったりしましたが、それもパイオニアとしての過渡期の宿命なんだろうと感じました。こういう時期を乗り越えて何とか正常モードにしていくのは本当に大変なことだというのを目の当たりにしました。ただ、今の委員長がおっしゃったように、子どもたちの意欲であるとか、先生方の取り組み方に関しては、非常に十分だと思いますし、最近、保護者の方も非常に巷では小学校1年生の授業参観がICTの授業になるので楽しみですということを行っているのを耳にします。中学生もこの間の中学生議会で、ICT教育に関しては非常に楽しみですということを行っているので、そういう期待の中でもものすごい苦労を重ねながらこの先取り組んで行くことになると思います。</p> <p>ICTができたことはよかったと、東山小学校のモデル校でやってきたときに、本当に実現するのかなと思いついて見ましたが、実際にスタートしたんだという実感を今持っています。</p>
河合委員長	ありがとうございます。先ほどからICTの進行状況とかのお話があったんですが、教育長先生として全体を見渡しまして現場としてはいかがでございますでしょうか。
細谷教育長	<p>ICT教育をどう進めるかということで、先生方とミーティングをする時間があつたのですが、そのときに申し上げたのが、何よりも校長さんたちが非常に意欲的であるということが嬉しく感じています。ICTはどうしても若い先生たちでリードしていくんだろうと思いました。ベテランの先生は、あるいは校長先生方というのは、なかなか使うことをためらって苦勞するのかなと、そんな心配をしていたんですが、ツールとして上手く使うことによって授業が分かりやすくなるんだという点も、すでにこの1か月2か月のところで感じ始めていただいているところが非常に手ごたえを感じています。</p> <p>ただ一方で、今の浅井さんもおっしゃったけれども、デメリット等をきちんと把握しながらデジタルとアナログの融合と両方のバランスよく活かすような、そういう授業を構想として計画していますので、そこのところ何でもかんでもICTをやっていれば先端を走っているような、そんな錯覚には陥ってほしくないし、苦手だからといってICT機器を触ろうともしないような先生がいてしまつてはそれはやっぱり全体のバランスがおかしくなる。そういう意味でデジタルとアナログを融合しながらバランスよく学力を育てていきたいし、未来に生きる子どもたちを育てていきたいなということを思っています。少なくともこういう環境を与えていただいたことに対しては、学校現場も非常にありがたく思っており、この場をお借りしてお礼申し上げたいし、実際の感想としてご報告しておきたいと思えます。以上です。ありがとうございました。</p>

発言者	要 旨
河合委員長	浅井さん、お願いします。
浅井委員	<p>時間がありませんが、ちょっとだけお願いします。</p> <p>私には子供が二人いて、上の子は良くできますが下の子はあまりできません。二人にICTの感想を聞くと、結構全然違うことを言います。上の子は勉強が最初からわかっているの、ICTが入ったからといって余計にわかったということがないから、なしでいいんじゃないのと言います。上の子は口が悪いので、でもICTを使ったからといって悪い成績が良くなるわけじゃないと言います。余計に目が疲れるというそういう感覚なんです、下の子は、とても楽しくてわかりやすくなったと言いますので、成績の平均を上げるのには有効ではないかと思ってます。ツールとして使いこなせればプラスをもたらすものだと思います。あと、目が疲れるというデメリットを言っていましたから、あまり頻繁に使わないという作戦もあるんですが、他のデメリットは技術とテクニックで解消できると思うんです。</p>
市 長	<p>私自身はネットの操作するのは大好きなんですけど、最初の頃は目がよく疲れました。これは、横書きだからじゃないかなと思ひ、縦書きで文書を作るようにした。最近横書きをすぐに縦書きに変換できるソフトがありますから、そうすると全部命令ですぐに縦書きにできる。私の感覚だと目の疲れが全く違います。だから、そういうものも作っていくことで、ある程度解決可能な部分もあると思います。</p> <p>先ほど頻繁に使わないということもおっしゃってましたが、もう使わなければいけない。1800年代に電話が出てきたときもそうなんですが、メディアでもテレビが出てきたときに、ラジオにはもう戻れないと言われたわけですが、こんな便利なものが出てきたのですから、もう引き返せない。ICT教育のために今は2億ほど使っていますが、フルにやると4億ほど掛る。やはりいろいろな壁を乗り越えて、デメリットも乗り越えた上でより一層ワンランク上の教育ができるようにしていただきたいと思ひます。</p>
河合委員長	<p>はい、ありがとうございました。今の市長さんの熱き思ひはですね、やはり現場にもお伝えしていく必要があるかなと思ひます。要するに子どもたちの学力を上げていくことが目的でもあるのですが、学力は県全体でも落ち込んでいる。大変残念な状況ですが、トータルな力をつけていく。そのためには、今アナログとデジタルの融合という言葉が使われましたが、そんな視点を持ちながら上手に激励して育てていただけたらなと思ひます。何よりですね、お子さんたちも前向きであるということが、大変心強いことだというふうに思っています。</p>
河合委員長	<p>時間も迫っておりますので、大変話を折ったようなことで申し訳ありませんが、2の議題についてはこの辺で終らせていただいて、続いて3その他の方に入りたいと思ひます。</p> <p>先般の9月の中学生議会について少しご報告をお願いできたらと思ひます。</p>
学校教育課長	(中学生議会について説明)

発言者	要 旨
河合委員長	<p>ありがとうございました。 中学生議会について、何かご質問はありますでしょうか。</p>
永田委員	<p>私の知り合いの子もやってみてとってもよかったと言っています。5年に1回やっているようですが、できない子がいるのもっとやりたいという声もあります。各中学校の生徒会から市長と議長に来てもらって陳情や意見を聞いてもらってはどうかという話です。その反面、それでは教育委員会の労力が大変だろうということで、それで今、何年間は会議開催できないだろうという話だったんですが、そういう話をしたところ、女の子が、別に中学生議会に大府の中学校全部じゃなくてもよいから、例えば、南中の生徒会長が市長さんとか教育委員にちょっと会って、陳情などをしてもいいんじゃないかと。学校単位で気楽にできるくらいの陳情があつたらどうかということでした。</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。なかなかいいアイデアだと思いますが、他に何かありますか。前向きなご発言で、それを事務局としてどう具体化して実りあるものにするかは、宿題をいただいたような形になりますが、他によろしいでしょうか。</p> <p>時間が私の進行の不便で迫ってしまって大変申し訳ないですが、この際ちょっとお話をとということがありましたらよろしく願います。</p>
河合委員長	<p>それでは、ご意見も出尽くしたようですので、これで議題3を終了いたします。事務局の方から、今後の日程について説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>(次回の総合教育会議の日程について説明)</p>
河合委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局から、今後の日程について説明がありました。また、追って通知を差し上げますのでよろしく願います。</p> <p>委員の皆さん、何か質問等ございませんか。 (なし)</p> <p>他にありませんか。 (なし)</p> <p>以上で、本日の会議を終わります。</p>